

音楽科学習指導案

日 時 平成22年11月17日(水) 6校時
学 級 1年A組(男子15名 女子10名 計25名)
指導者 中村 元美

- 1 題材名 音色とリズムの掛け合いを感じながら太鼓の演奏をしよう
〈教材〉「焼石太鼓」(郷土の伝統音楽)

2 題材について

(1) 題材観

本題材は、表現の指導事項(2)イ「楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身につけて演奏すること。」から設定している。

また、共通事項ア「音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じること。」のうち、以下の点について、焦点化を図って設定する。

○音色、リズム、強弱について、それぞれの要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じること。

本題材は、郷土の伝統音楽の太鼓音楽について、音楽を形づくっている音色、リズム、速度、強弱と、それら要素同士の関連を知覚し、音楽の特徴をとらえたうえで、それらの働きによって生み出される特質や雰囲気を感じ、和太鼓の音や奏法の特徴を基に、意欲をもって表現していくことをねらいとする。また、各地域の郷土の伝統音楽を取り扱うことで、地域にも特徴をもった様々な音楽が存在していることを知り、音楽の多様性を理解させたい。

(2) 生徒観

本学級は、全体的に明るく素直で前向きに取り組む雰囲気がある学級である。小学校時代に郷土の音楽に触れる経験をしてきた生徒が何名かいるものの、日常的に郷土の音楽に親しむ機会は多くはない。しかし、「焼石太鼓」の演奏に触れ多くの生徒は、迫力があって力強い演奏に引き込まれ、自分も演奏してみたいと感じている。郷土の伝統音楽「焼石太鼓」を実際に演奏してみることで、さらに身近なものにしたい。

(3) 指導観

「焼石太鼓」という郷土の伝統音楽を通して、和太鼓の音色、リズム、速度、強弱に着目して、これらの諸要素と曲想の関係を学ぶとともに音楽の多様性を理解させたい。また、和太鼓の基本的な奏法を通して、撥の持ち方、腕の振り方、打ち方、立ち方など和太鼓を演奏する際の姿勢やリズムを覚えたりする。さらに同じリズムであっても、強弱や速度、打つ場所の違いによって様々に変わる和太鼓の音色を知覚し、その特質を感じるとともに、それらを生かした表現を工夫させていきたい。この題材を扱うことによって、我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、音楽文化を尊重する態度を養っていきたい。

3 題材の目標

(1) 音楽への関心・意欲・態度

強弱や速度、打つ場所によって様々に変わる太鼓の音色やリズムの掛け合いに関心をもち、意欲的に曲にふさわしい表現を工夫して演奏しようとする。

(2) 音楽的な感受や表現の工夫

リズムの掛け合いの特徴や太鼓の様々な音色を知覚し、その特徴を感じるとともに、それらを生かした表現を工夫する。

(3) 表現の技能

リズムの掛け合いや太鼓の様々な音色と特質を生かして、演奏表現する技術を身に付ける。

4 題材の評価規準

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽的な感受や表現の工夫	ウ表現の技能
題材の評価規準	・強弱や速度、打つ場所によって様々に変わる太鼓の音色やリズムの掛け合いに関心を持ち、意欲的に曲にふさわしい表現を工夫して演奏しようとしている。	・リズムの掛け合いの特徴や太鼓の様々な音色を知覚し、その特質を感受するとともに、それらを生かした表現を工夫している。	・リズムの掛け合いや太鼓の様々な音色と特質を生かして、演奏表現する技術を身に付けている。
具学 体習 の活 評動 価に 基お 準け る	①様々に変わる太鼓の音色やリズムの掛け合いに関心を持ち、表現を工夫して意欲的に演奏しようとしている。 ②リズムの掛け合いを感じながら演奏しようとしている。	①リズムの掛け合いの特徴や太鼓の様々な音色を知覚し、その特質を感じ取っている。 ②リズムの掛け合いの特徴や太鼓の様々な音色を生かした表現を工夫している。	①リズムの掛け合いや太鼓の様々な音色と特質を生かして、演奏表現する技術を身に付けている。

5 指導計画

時間	学習内容	関連題材評価規準
1	・太鼓の基本的な奏法について学習する	アー①
2	・強弱や速度、打つ場所によって様々に変わる太鼓の音色を知覚し、その特質を感受する。 ・リズムの掛け合いの特徴を知覚し、その特質を感受する。	アー② イー① イー②
3 本時	・グループで話し合い、様々に変わる太鼓の音色と特質を生かして表現をする。	ウー①

6 本時の指導

(1) 本時の目標

様々に変わる太鼓の音色と特質を生かして表現をする。

(2) 表現の場を活かす場の設定について

音楽科における表現力は、「知覚し感じとったことをもとに、自己の思いや意図を歌唱、器楽、創作で表現する」「自分の感じていることを相手に伝えるために、その内容を言葉で適切に表現する力」としている。

本時は、前時までの学習で感じ取った強弱や速度の特徴と特質に加え、リズムの掛け合いや太鼓の様々な音色に着目してそれらを変化させながらどのようなイメージで表現したいのか考えをもち、グループ活動の中でその考えを互いに伝えあい、学び合えるような場としたい。

(3) 具体的評価規準

	A 十分に満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への具体的な支援
表現の技能	・リズムの掛け合いや太鼓の様々な音色と特質を生かして、自分の考えるイメージにあった演奏表現する技術を身に付けている。	・リズムの掛け合いや太鼓の様々な音色と特質を生かして、演奏する技術を身に付けている。	・学習した内容を確認し、考えたり工夫したりする視点を明確にし、その視点を意識して演奏するように助言する。

(4) 本時の展開

段階	学習内容	学 習 活 動	評価(○)・支援(*)・留意点(・)
導入 10	1 前時の復習	◇前時の学習内容を確認する。 ・ 強弱と音色、速度について学習したことを確認する。	
	2 課題設定	◇課題をつかむ。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 強弱と音色、速度を変化させて、イメージに合った「祭り太鼓」を演奏しよう </div>			
展 開 35	3 課題解決の見通し	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 表現 グループ </div> ◇「祭り太鼓」の中から、表現を工夫する部分を取り上げ、自分たちのイメージに合う強弱や速度、音色についてグループで話し合う。	*今までの学習の中でとらえた特徴を1つずつ確認して、考えていくヒントを示す。 ○積極的に自分の考えを発表しているか。 ・原曲のもっているよさを活かしながらも、自分たちのイメージした演奏になるよう考えさせる。 ○意欲的に表現しようとしているか。
	4 課題追求	◇イメージに合う表現をするために、強弱や速度、音色を考え、それらを変化させながら表現を工夫する。	
	5 発表	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 表現 グループ </div> ◇工夫した点を紹介しながら、発表し合い、意見交換をする。	*それぞれのグループの演奏のよさを見つけさせる。
	6 課題の解決	◇それぞれの発表から、同じリズムであっても、強弱や速度、音色を変化させることによって、曲のイメージが変わることを感じ取る。	
終末 5	7 学習のまとめ	◇自己評価をする。	・それぞれの音楽によさがあり、それは要素の働きによるものであることを確認する。